

「志・感謝・誇りをもち、キラリ輝く大川っ子」の育成をめざして

全国学力・学習状況調査

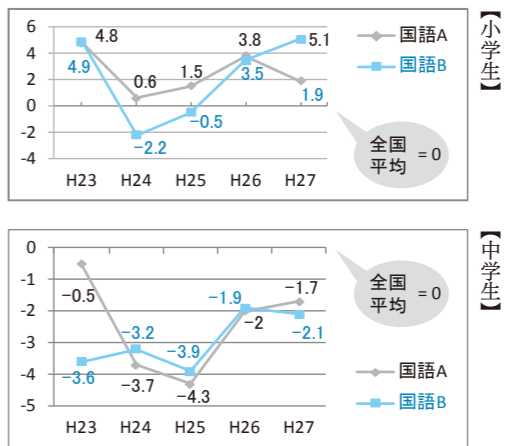
大川市では、子ども達に、確かな学力や豊かな心、健やかな体をはぐくみ、生涯にわたって自ら学び、自らを高め、未来を切り開いていく「生きる力」を育成していくことをめざしています。その一つとして、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、必要な施策の検討を行っています。

調査の概要

平成27年度の調査は、昨年度と同様、全員参加方式で実施されました。実施教科は従来の国語・算数（数学）に加え、理科が追加されています。

期日 平成27年4月21日(火)
 対象 市内全8小学校6年生281名
 全4中学校3年生301名
 内容 ①国語、算数（数学）、理科に関する調査
 ②学習意欲、学習環境、生活習慣などに関する調査

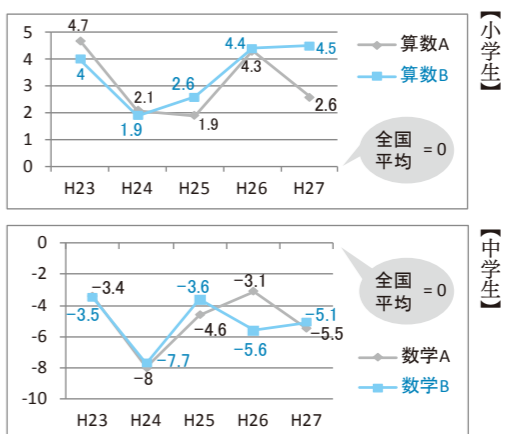
国語の学力調査結果



国語の学習の充実に向けて

日々の授業の中で、国語の学力を身に付けるためには、教材文をしっかり読み深める活動、自分の考えを書いたりそれをもとに話し合い、考えを深めたり広げたりする活動、学習のまとめや振り返りを書く活動などを、子ども一人一人に保障することが必要です。

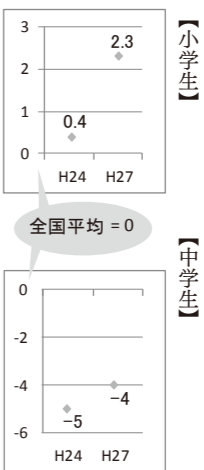
算数・数学の学力調査結果



算数・数学の学習に向けて

日常の授業において、算数・数学的なものの見方や考え方を伸ばすためには、課題の自力解決だけで終わるのではなく、話し合い活動を通して、他者のいろいろな考え方や解決方法を理解し、様々な表現のよさに気付いたり、見方を変えて新しい解決方法を考えたりすることが重要です。

理科の学力調査結果



理科の学習の充実に向けて

日常の授業において科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるためには、自然の現象や事物から問題を見だし、それを解決するために観察・実験などを行い、得られた結果を表にまとめたり、話し合い活動や発表などの学習活動を充実していくことが大切です。

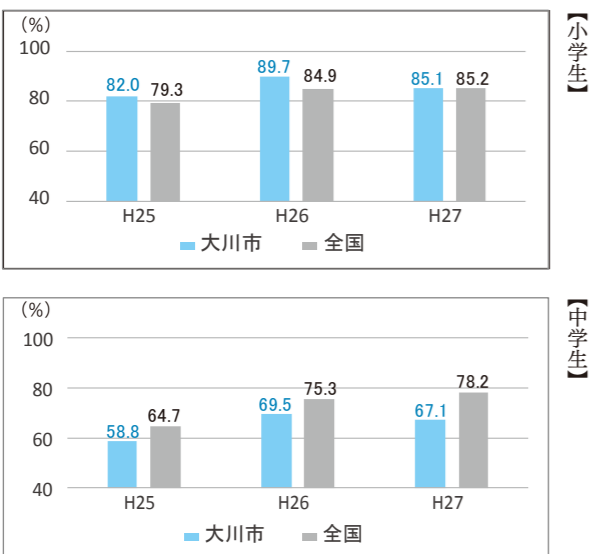
教科のA・Bの違いとは？

Aは「知識・技能」に関する問題、Bは活用に必要な「思考力・判断力・表現力」に関して主に問題されます。（理科はA・Bの別なく、一体的な問題を出题）

学習意欲の向上のために

学力が向上するためには、学校での学習とともに、家庭学習や基本的な生活習慣がたいへん重要です。学校での学習では、授業中のめあてやまとめをしっかり確認したり、自分の考えを書いて発表したり、ノートの書き方を工夫したりしながら、教科に応じた学習の仕方を身に付けることが大切です。また、授業中は積極的に話し合い活動に参加し、授業で分からなかったことやできなかったことをそのままにせず、先生や友達に質問したりする子ども、できるまであきらめずに繰り返し練習する子どもは、学力も伸び、学習意欲も向上していきます。

授業の中で話し合い活動を行っている割合



家庭学習の習慣をつけましょう

家庭学習時間が、小中学校ともに全国に比べて少なく、小学校では、マイナス9・0ポイント、中学校では、マイナス14・8ポイントと低い状態です。また、自分で計画を立てて勉強している児童生徒も全国に比べて少なく、小学校では、マイナス4・4ポイント、中学校では、マイナス6・2ポイントとなっています。小中学校ともに、家庭学習が大きな課題となっています。

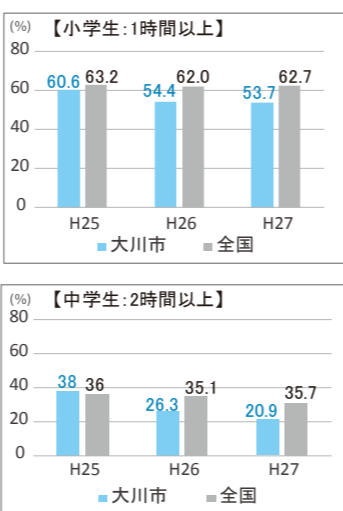
小学校、中学校ともゲームやメールの使用時間を制限し、家庭学習時間をしっかり確保することが大切です。特に中学校では、部活動等を終えて、帰宅した後の学習時間をしっかり確保して早めに学習に取り掛かるよう心がけてください。

家庭学習の習慣が身につくとき、より効果を上げるためには、家庭の協力が不可欠です。メールやスマートフォンなどの使用など、家庭で過ごす時間の使い方についてお子さんや家族としっかり話し合い、宿題や復習、予習など家庭学習の時間をしっかり確保してください。

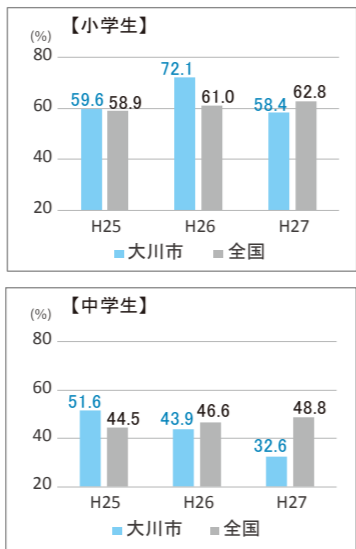
- ゲームやメール、スマートフォンは、できるだけ使用せず、使用しても短時間でできるように約束し、学習に集中できる環境をつくりましょう。
- 子どもが決めた通りにできるとき、それを認めてしっかりほめましょう。
- 子どもの学習時には、テレビを消すなど、家族が協力しましょう。



学校の授業以外の平日(月～金曜)1日あたりの勉強時間の割合



自分で計画を立てて勉強している割合



家で、学校の宿題をしている割合

